

## 授業科目

## 筋生理学

【担当教員名】 笛井 宣昌	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

## 【&lt;概要&gt;又は&lt;一般目標: G I O&gt;】

本講義では、骨格筋の構造や機能に関する基本事項について学習する。骨格筋が身体運動における動力源として働くことは、説明するまでもないであろう。また、骨格筋が運動により鍛えられ、逆に不使用により衰えることも、よく知られたことであろう。

では、「それらの現象は、どのようなメカニズムにより発現しているのだろう?」この点について理解を深めることは、ヒトの身体活動や健康を理解するために役立つであろう。

## 【&lt;学習目標&gt;又は&lt;行動目標: S B O&gt;】

「運動と骨格筋」、或いは「運動による骨格筋の適応」といったことを念頭に、骨格筋における構造-機能の連関や、可塑性変化について認識する。さらに、それらに関わる細胞・分子メカニズムをかいざることを目指す。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	<p>集中型で行うに当たり、次のテーマを予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>筋収縮と構造</li> <li>筋収縮の調節</li> <li>筋収縮のエネルギー</li> <li>肥大と過形成</li> <li>萎縮</li> <li>活動性と遺伝子発現調節</li> <li>加齢変化</li> </ol> <p>* 尚、時間内に小テストを実施する。</p>			講義と演習

【使用図書】	【書名】	【著者名】	【発行所】	【発行年・価格・その他】
教科書 (必ず購入する書籍)	なし			
参考書	現代の体育・スポーツ科学 運動と筋の科学、勝田茂 編、朝倉書店、2000年			
その他の資料				
【評価方法】 出席と小テスト。		【履修上の留意点】 ・黒、及び赤色のボールペンを持参して下さい。小テストで使用します。 ・本講義は集中型で行います。		